

第6回将来企画委員会議事録

日時；2011年5月24日、13-14時

場所；幕張メッセ301B号室

(出席者；大谷、松井、宮脇、鍵、太和田、平賀、土山、河上、赤坂、村上)

(1) 会長、副会長の選出方法

現状では、会長は会長候補者推薦委員会で1名以上を次期会長候補者として選定し、副会長は会長により推薦され、評議員会で承認する。この状態では、会長が選んだ副会長が次期会長候補者となり、会長の後継者指名の形になりやすく、会員には、会員不在の候補者選に写ってしまう。

鉱物科学会の運営は多岐にわたること、事案の継続性、将来方針の継続性から、副会長制度そのものは存在する必要がある。様々な改正案が提案されたが、基本は、会長は会員が選ぶ（できるだけ、複数の会長候補者から）ことである。過去の経験から、複数の会長候補者を推薦することは簡単でなく、また、会則では、5名以上の正会員が会長候補者を会長候補者推薦委員会に推薦できることになっているが、機能しているとは言えない。一方、副会長は次期会長候補になりやすい。これらを解決するには、副会長も会員の選挙で選ぶことである。この副会長が次期会長選挙でただ一人の会長候補者となり、実質信任投票となったとしても、一回選挙を行っているので、次善の策となりうる。ただ、選挙で独立に選ばれた会長と副会長が、鉱物科学会を現状同様に運営できるか、また副会長選挙で、会員に次期会長の有力候補としてどのように意識してもらえるかは、今後の推移をみて改善が必要かも知れない。

このような経緯を踏まえ、将来企画委員会としては、次のような提案を5月24日の評議員会に行い、議論と会則の変更をお願いし、9月の総会でこの提案を審議していただくことになった。提案；会長・副会長候補者推薦委員会は、1名以上の会長候補者及び2名以上の副会長候補者を選定する。

なお、この提案の実施には総則と内規の変更を伴う。

(2) 年会のあり方／年会前のスクール

年会は学会誌と並び学会の柱なので、魅力的になるように設計し、大学院生若手の取り込み、会員増加につなげるようにする必要がある。これに対し、

- 1) レギュラーセッションに対し、スペシャルセッションを増やしていく。
 - 2) 様々な学会との同日開催などを2-3年に1回の割合で企画する。
 - 3) 米国鉱物学会のような年会前のショートコースは企画としてはすばらしいが、ハードルが高いので、数人の講師によるレクチャー形式を検討する。
- 等の対策案が出された。これらは継続審議とする。

(3) 会員の増加

この問題は長年検討され、抜本的な案はない。

- 1) 年会、発行物を通じて、魅力ある学会にする（例；年会前のレクチャー）
 - 2) 各大学の指導教員に、学生の入会勧誘の尽力をお願いする
 - 3) 雑誌と各種委員会委員及びセッションのコンビーナーを30代から40代前半の人に大幅に譲り、責任を持ってもらうことにより、学会への帰属意識が高まり、学会を支えてもらえるようになる。また、その学生も年会に来て、加入確率が高まる。
 - 4) e-journal化すれば、学生が会員となることを躊躇しないか？
- などの意見が出たが、継続審議となった。

(4) GKK

過去の本委員会で、GKKの見直し（日本語原著論文、発行部数など）が議論されたが、GKK編集委員会では発行を維持・強化する方針が出された。また、予算が少なくなること何らかの対応をすべきである、e-journal化に際しては、パスワード制を設け、会員限定にする、などの案が出された。今後どのようにするかは、学会の将来像や会員のコンセンサスが必要で拙速は避けるべきである。